

(別紙1)

自己評価及び外部評価 結果

作成日 平成25年5月25日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2775801935		
法人名	株式会社 ライフパートナー		
事業所名	グループホーム アムール平野		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪市平野区背戸口1丁目12番10号		
自己評価作成日	平成25年4月1日	評価結果市町村受理日	平成25年6月6日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	http://www.kaigokensaku.jp/27/index.php
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人評価機関あんしん
所在地	大阪府岸和田市三田町1797
訪問調査日	平成25年4月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

それぞれの方が、その人らしく穏やかな日々を過ごして頂けるようにと考えながら、できることはご自分で、できないところ・わからないところはお手伝いさせて頂いて、お互いに助け合いながら、支え合いながら暮らして頂けるよう支援しています。経験豊かなスタッフや、今が働き盛りのスタッフ、若くて元気で優しいスタッフに恵まれ質の高い日常生活介護を提供すると共に、1階にあるクリニックの主治医や施設の認知症ケア専門士、看護師資格を持つ管理者、地域包括支援センター、訪問看護等と連携し認知症以外にも慢性的な病気をお持ちの利用者様にも十分なケアが提供できる体制を整え、利用者様が安心して生活できるグループホームを実現しました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

グループホームアムール平野は、地下鉄谷町線平野駅から徒歩10分のところがあり、近くに小中学校や白鷺公園などがある落ち着いた閑静な住宅地の中に位置する。事業所は3階建てビルの2階と3階にあり、1階には診療所と薬局が併設されている。管理者は「寂しくなく暮らせる環境のある安心のできる暮らしの提供」を目指し、理念の「愛と自由」を実践したサービスの提供を心がけている。

同社では社内キャリアアップ研修制度を設け、運営する各事業所から1名ずつ選定し、年間を通じて毎月1回様々なテーマ研修を受講させる取り組みがある。研修内容は、受講者から各事業所へさらに伝達研修によって全職員に伝えられ、日頃のサービスに活かしている。

また、利用者や家族の意見や要望などは、その語り口調のまま記録することを基本とし、他の職員でもその真意や程度などの細かなニュアンスを読み取れるような工夫をしている。

ターミナルケアへの対応も積極的に行い、職員と看護師、医師など関係職種が24時間体制で連携し、家族と共に利用者を見ていく。見送りは、他の利用者も一緒に参加できるようにしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者は実践者研修、社内キャリアアップ研修で学んだ成果をスタッフに伝達講習を行い事業所理念の成り立ち、根拠、方針について共有し日々のケアの方向性についての指針としている。理念を掲示し理念を目指した支援を実践できるように日々の申し送り時やカンファレンス時に指導し、共通した認識を持つように努めている。	「愛のある我が家のような生活を目指します。自由な環境を創造します。安心と信頼のホームを実現します。」を理念としている。理念は事業所内に掲示するほか、アムールだよりに掲載している。また、入職時研修は勿論、各事業所で選定された者が受講する社内キャリアアップ研修においても、理念に関する研修を行い理解を深めている。平素は申し送り時などで職員間で理念を確認し、その実践に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩、買い物、出勤時には挨拶をし、回覧板を回し、地域の老人会・婦人会などの食事会へお誘い頂ける関係が出来ている。地域の「民謡の会」との交流があり、お互いのお稽古の成果を発表する機会がある。	町内会に加入し、回覧板で情報提供を受けたり、廃品回収や事業所周辺の清掃活動、餅つき大会などの地域行事に参加している。また老人会等からの食事会への誘いもあり、利用者とともに参加している。周辺住民とも散歩などで顔なじみとなり、挨拶を交わすなど、地域の一員として交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や町会に出席し認知症高齢者のケアの実践報告を行い、地域での理解と協力を求めている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、利用者の状況やホームでの行事の報告をしている。防火、防災、ノロウイルス・インフルエンザ等の感染症についての情報交換を行いご意見をいただきサービスの質の向上に努めている。	運営推進会議は2ヶ月ごとに開催している。町会会長、地域包括支援センター職員、地域婦人会部長、利用者家族などが参加し、事業所の活動報告や地域行事について活発な意見交換ができています。会議の内容は議事録により職員間で情報共有し、サービスの向上に活かせるよう取り組んでいる。また町内会の要望で集いに参加し、事業所の紹介やPRをさせてもらうなど、地域とのつながりを深めるための大きな役割を担っている。		

5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	<p>行政からの通知や指定申請に関わる事項について解らない事や疑問な点について事前に相談し、法令順守に基づいたサービスの提供に努めている。</p>	<p>市町村担当者とは、主に法令遵守に関連した問い合わせや質問により連絡を取っている。サービス内容については地域包括支援センターとの連携が主となり、運営推進会議への参加を通じて連携を深めている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>利用者の状況に変化のある度に、「身体拘束しないケアの実践」について話し合っている。どういことが身体拘束になるか、身体拘束の3つの条件とは何かを日々周知しこの条件を満たさない拘束は高齢者虐待に該当するという認識を共有している。</p>	<p>年に1回身体拘束に関する内部研修を実施している。職員は切迫性、一時性、非代替性の身体拘束の条件を周知し、現在家族に同意の上身体拘束を行っている事例もある。2～3階のユニット出入口は施錠していないものの、安全確保の面から1階建物出入口は原則として施錠している。</p>	
7		<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>実践者研修や権利擁護・高齢者虐待の研修に参加し施設内での研修を行い、ホームで虐待防止に取り組み日常のケアの中でも注意しあっている。施設内には高齢者虐待のパンフレットを常備し、運営推進会議等で地域の方とも情報交換し、高齢者虐待防止の啓蒙に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>意思決定支援・権利擁護の研修に参加し施設内で研修を行い、権利擁護の方策について検討し、必要時は関係者・各機関と連携を図る事ができる。現在1名の成年後見制度利用者がおられる。今後利用者の高齢化に伴い日常生活自立支援事業の活用も必要であると考えている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項を説明し、ご理解頂けたことを確認し同意を得たのち、契約をさせて頂いている。契約時だけでなく締結後も、日常の関わりを通してご質問等がいつでも聴ける関係構築に努めている。</p>		

10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご希望や疑問な点はアンケート箱の設置や、面会カードに記入欄を設けご記入いただいている。対応策は全職員に周知の上協議し、サービスの質の向上が図れるよう運営に反映させている。	利用者や家族の意見や要望は、主に家族の訪問時に職員が直接聞き取っている。忌憚のない意見を出してもらいやすくするため、アンケート箱や面会カードに意見記入欄を設けるなどの取り組みも行っている。家族の意見により、エレベーター内に職員の氏名と顔写真を掲示するなど、利用者や家族の意見を運営面に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	1ヶ月に1回の全体会議時には、スタッフ1人1人の意見を求めている。日常においても、各職員の声が聴ける関係作りに努めている。	朝礼を初め、ユニットごとの業務ミーティング、全体会議など参加全職員が意見や提案を述べる機会を設けている。備品購入や職員増員などの要望等も受け入れ、運営に反映させている。また、管理者は日々の勤務の中で職員が気軽に話せるような雰囲気作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス要件規程を設け、キャリアアップの為に計画書を作成、周知し目標や給与を明確にしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内研修、法人研修、社外研修と多くの研修の機会を用意し、個人の目標や能力に応じてのコースを選択できる仕組みがある。		
14		代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	大阪市GHネットワーク、他区交流会に参加している。交流の中で、気づくことが沢山あり、自事業所を客観的に見るいい機会になっている。		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アムール平野の理念である「我が家のような生活」の実現のために、入所前にご家庭に訪問しご本人が生活して来られた環境を把握する様にしている。お話を傾聴しご本人が大切にされて来たことを受け止め不安のない関係作りを実践している。		
----	--	--	--	--	--

16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に寄り添うように、ご家族の気持ちや不安・要望に寄り添えるようご家族様のお話を傾聴し関係作りを行っている。伺った内容は相談記録、利用者基本情報に記載しスタッフ間でも情報を共有している。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	主治医・認知症ケア専門士、看護師、管理者、計画作成担当者が連携し利用者様のニーズを把握し援助方針を決定し必要とされるケアを提供し利用者様が安心して生活できる環境を整え、本人と家族の真のニーズにたどり着く初期段階の重要なプロセスと認識しサービスの向上に努めている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活時間を共有し、コミュニケーションを深め本人が快くお手伝いして下さることや今まで生活して来られた中のお得意なことを知り、信頼関係を築き、自由な感情や思いの表出を理解し利用者の尊厳を認め自由な環境を創造し共に支え合う関係を作っている。		
19	○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人を中心に、介護職とご家族様と共に考え、お互いの役割を理解しながら、協力していける関係を創ると共にご家族様の不安や悩みも受け止めている。		
20	8 ○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人の面会時にはお茶やお菓子等を提供しゆっくりと話ができるように配慮している。	馴染みの喫茶店からこだわりのコーヒー豆を買ってきて事業所内で楽しんでもらったり、知人や友人の面会時には、職員がお茶やお菓子でもてなすなど、現状に相応した馴染みの人や場との関係継続に向けた取り組みを行っている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人でないことの安心感とお互いを認め合う関係づくりの為にそれぞれの相性や関係性を考慮して、支え合う関係の支援に努めている。		
22	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅復帰時には、ケアマネージャーやご家族様への情報提供はもちろん、その後も関係性の継続のために、自宅や病院等に訪問し必要時は相談に応じている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	<p>○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々のコミュニケーションの中の何気ない言葉に耳を傾け、話しやすい伝えやすい環境作り配慮している。また、日々の表情やしぐさにも気をくばり、記録に残し共有している。</p>	<p>日常の会話の中で利用者一人ひとりの希望や意向を聞き取っている。聞き取った内容は、その話し口調のまま利用者ごとに作成している「日々の記録（カルテ）」に記載し、その思いの程度まで職員が感じられるよう工夫している。聞き取ることが困難な場合は、表情やしぐさなどで把握できるよう努めている。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める</p>	<p>ご家族様、ケアマネージャー、訪問看護師など、その方に関わって来られた方々から情報を頂き、これまでの生きて来られた歴史を知ることが、その方を知る事でもあり、その頂いた情報をスタッフ間で共有している。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>日々の記録（バイタル表・介護記録等）に利用者一人ひとりの様子を細かく記入し姿勢、顔色、話し方などの小さな変化にも気づける様に努め、必要な事項は申し送り時にショートカンファレンスを行い、その内容は全スタッフに周知している。</p>		
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>本人の課題の解決の為に、一つの目標に向かって、介護職、看護師、Dr、ご家族が、それぞれの役割を考え、協力し合える介護計画を作成している。</p>	<p>カンファレンスには、計画作成担当者、介護職員、看護師、利用者家族が参加している。ただ家族は呼びかけはするもののカンファレンスへの参加率は低く、家族訪問時や日常の連絡を取り合う中で、それぞれの意見や提案を聞き取り、介護計画に反映させている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>SOAPに基づいた記録をし、本人の声、体調を拾いあげ情報の収集、分析、評価を実施しながら介護計画を作成している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>地域の民謡の会、音楽療法等のインフォーマルなサービスや訪問看護、歯科等のフォーマルなサービスを活用している。</p>		

29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通して、地域活動の参加の機会を頂いている。また、消防訓練にも参加し、協力関係を築いている。		
30	11 ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1階の松田クリニックのDrが日々の体調を細やかに把握して頂いている。病気に応じて適切な医療機関との協力を得ながら、本人やご家族の希望に沿った対応をしている。	事業所建物1階の診療所の医師による往診が毎月曜日にある。体調に応じて細やかな対応をしてもらえるためほとんどの利用者が、かかりつけ医として利用している。日常の往診記録はカルテに記入し職員間で共有している。状態に変化があれば家族に電話などで報告することになっている。他院への通院は原則家族が同伴していて、病状に応じて、本人や家族の意向に応じた対応をしている。	
31	○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	看護師をホームのスタッフとして配置しており、日常的に本人の様子を記録に残している。体調の変化時は直ぐにDrに報告し対応して頂いている。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	長期入院が本人に与えるダメージの大きさを十分に理解しており、お見舞いに行かせて頂いた時に、本人の状態を教えて頂き、できるだけ早期の退院に向かっての情報交換を行っている。		
33	12 ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師によるインフォームドコンセントの後、個別性のあるターミナルケアの指針を作成し必要時地域緩和ケア支援ネットワークの利用を行っている。	看取り介護の指針を文章化しており、事業所としての支援方針を入所時と終末期に家族に説明し、いずれも同意書を交わしている。終末期には家族や医師、看護師などの関係者が24時間体制で見守り、利用者が安心して最期を迎えられるよう利用者本位の支援を行っている。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応についての勉強会を実施している。ホームの看護師により救命処置に関して研修を行い、随時指導し、実践に備えている。		

35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	大きな災害のニュースが流れると、町内会の会長がホームに来て下さって、協力体制の話し合いや確認ができる関係がある。	災害発生時には近隣住民の協力が得られるよう町会長が中心となり協力体制づくりを行っている。消防訓練は年に2回実施し、うち1回は消防署の立会いの上実施している。スプリンクラーを完備している。飲料水、カップ麺を備蓄しており、定期的に入れ替えもしている。	
----	----	--	--	---	--

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入職時からスタッフに高齢者の権利擁護の為の代弁者・実践者・支援者としての意識付けを行い確認している。日々、尊敬の念を忘れない対応を心がける様指導している。	高齢者の権利擁護に関する事業所内研修を年に1回実施している。また、スタッフルームに、プライバシー保護のマニュアルを掲示をしたり、直接管理者から職員に注意を与えるなど、平素から職員に対して人格の尊重やプライバシーに対する意識づけを行なっている。個人記録等は鍵付書庫に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	受容的態度で接しこころ使いと思いやりをわすれず、利用者本人が希望を表出しやすい環境を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の体調や気分によって、「嫌」「行かへん」等の答えが返って来ることも多いが、その時は本人の意思を受け止め、スタッフサイドの都合で無理にすることはしないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	生活歴に応じた、その方の身だしなみを考え、起床時の整容、毎食後の口腔ケア、就寝時のケア等清潔な整容を心がけている。		

40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>毎回のメニューを黒板に書いて頂いている。食事準備中に味見をして頂き、匂いを感じて頂き、食に対する楽しみを感じられるようにしている。食事が終わったら、食器洗い等その方が出来るお手伝いをして頂いている。</p>	<p>利用者は能力に応じて職員と一緒に食器洗いや下膳を行っている。また献立を黒板に書くことも利用者の日課とし、食事が楽しめるよう演出している。朝食の食材は利用者と一緒に買いに出かけるようにし、また朝食の時間帯は利用者個々の生活時間に合わせた対応を心がけている。行事や利用者の誕生日に合わせて別メニューを作ったり、テラスにビアガーデンを設営したり、外食をするなど食事に変化をもたせ、食事を楽しめる工夫をしている。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>主食副食共に嚥下状態、好みによりパン、パン粥、全粥、おにぎり、ミキサー食、刻み食等対応している糖尿病によるカロリー制限、心不全等による水分制限に対応し減塩食を心がけている。お茶をクラッシュゼリー状に作り、嚥下不良の利用者にも適切な水分補給を行い、喫食率70%未満の利用者には医師の指示により栄養補助食品を提供し栄養障害を予防している、</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>利用者個人に応じた口腔ケアの方法を工夫して起床、就寝時、毎食後口腔ケアを行っている。訪問歯科と連携し、定期的に口腔内の状態を確認して頂いている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄パターンを理解し、声掛け、誘導、介助を行い適切な対応を選択することにより、プライドにも配慮した自分でトイレに行ってもらえる工夫ができています。</p>	<p>職員は排泄記録を基にして、利用者の排泄パターンを把握し、声掛け、誘導、介助を行ってトイレによる排泄を促している。便秘気味の際にも医師に相談の上適切な対応を行っている。失禁時にも利用者のプライドに配慮した対応を心がけている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>スタッフは、便秘が原因によるBPSDを十分に理解しており、Dr指示の緩下剤の使用や水分摂取量の確保等、便秘よ予防に努めている。</p>		

45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>一人ずつ個別に入浴していただき、個人に合わせて、入浴後のスキンケアを行い、スタッフ・時間を臨機応変に対応している。</p>	<p>基本は週2回の入浴としており、職員の夜勤帯以外はいつでも入浴を楽しむことができる。希望により同性介助を行っている。入浴を拒否する利用者には、時間を変えて声かけしたり、清拭やシャワー浴、足湯など希望に応じた対応をしている。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>本人の体調に合わせて休息の時間を作っている。また不眠時はその理由を探り、スタッフDrと協力して、安眠の為の支援をしている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>指示どおり正確に服薬できるように服薬確認している。新しく処方された薬があるたびにお薬説明書を用意し、目的・副作用をスタッフに周知している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>コーヒーは豆を挽いて飲むという飲み方が好きな方がおられ、1日に1回から2回のコーヒータイムを楽しみにしておられる。また、おいしいコーヒーを飲むことがいい気分転換になっている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>地域の食事会の参加や、スタッフと共に近くの喫茶店へ出かける等、地域への参加や個別の時間の確保等、その方に応じた外出の支援をしている。</p>	<p>日頃の散歩の他、年に数回の町会主催の食事会、近隣の喫茶店をはじめ、近鉄百貨店への買い物、白鷺公園などへの花見、杭全神社祭礼等、利用者の能力に応じて外出の機会を確保し、家族の協力を得ながら利用者の希望に沿った外出支援を行っている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご自分の財布を持っておられ、喫茶店等に行った際は、自分の財布から支払いをされる。</p>		

51	<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>ご自分の携帯電話を持っておられる方がいる。その他、ご家族様からの電話を取り次ぎお話をされている。手紙のやり取りは難しいことが多くなった。</p>		
52	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>天気の良い日は窓をあけて新しい空気を取り入れる等の今までの基本的な生活習慣を大切にすることと、ホームだからできるヒートショックの防止を考えた空調管理をすることで、居心地良く過ごして頂ける様に努めている。</p>	<p>「事業所は『利用者の生活の場』であり、『職員の仕事場』ではない。」をモットーに、施設的で非日常的な飾りつけはせず、自宅をイメージした落ち着いた空間づくりを心がけている。また、居間に区画を設け、利用者が思い思いに寛げる工夫を施している。利用者の状況に応じて、BGMに本人の好きな音楽を流して、気分転換を図っている。2階ユニットでは、愛玩犬を飼育していて、利用者の癒しとなっている。また各階に設けたテラスでは、季節の花や野菜を栽培し、居間食堂からいつも季節感を感じることができるようにしている。</p>	
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>冬季はこたつの設置を行い、季節に応じた環境を用意し、気の合う方同士が和やかに談笑できるようにしている。その他腰を掛ける事の出来る場所を随所で作っている。</p>		
54	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人が趣味で作っておられた人形や使いたれた家具等で、自分なりの安心できるお部屋をご家族様と話し合っておられる。その際、ADLや認知度に応じたアドバイスを行っている。</p>	<p>エアコン、ベッド、カーテンは備え付けとなっており、ベッドは利用者のADLなどに応じて適切な仕様のものを選定している。利用者の希望により、床をカーペット敷きにもできる。利用者は冷蔵庫以外は好みのものを自由に持ち込むことができ、整理ダンス、テレビ、写真、自作の日本人形等を持ち込んで、好みの居住空間を作っている。</p>	
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>各所に手すりを整備している。床はクッションフロアを採用し、転倒時の怪我を小さくする工夫をしている。その他、居室の環境整備、福祉用具の検討をすることにより、本人が自分の力で生活できるように配慮している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない

62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない